

西行が見た紫雲？

関連記事P2,3

広報ひがしの

令和3年7月16日AM4時30分ごろの南東の空

西行法師が鎌倉から京に向かう途中（1197年）、岐蘇山道を経て大井郷に至った。
9月26日の早朝（暁時）に出立し、中野坂に至った時、南東に、紫雲の中に立ち金色の光を放った阿弥陀観音菩薩を見る。
（長国寺縁起による）

NO. 176

人口1653人

（男）835人

（女）818人

629世帯

R3.11.1現在

米どころ東野

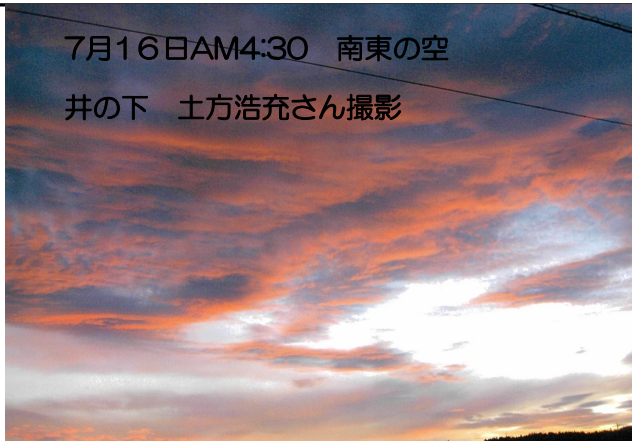
米づくりは東野小学校の大切な教育活動です

関連記事 P4

歴史で地域を強くする

7月16日AM4:30 南東の空

井の下 土方浩充さん撮影



上の写真は、令和三年七月十六日の早朝（四時半ごろ）の朝焼けの様子です。井の下の土方浩充さん宅より南東の方角の空です。赤い雲の中に金色の光があり、まさに西行が八百年ほど前に見た紫雲と同じものを見

たような気がします。

西行は鎌倉から京に上る途中、中野坂（現在の長島町中野・中山道の槇ケ根の辺り）にさしかかったとき南東の空の紫雲の中に金色に光る弥陀三尊を求めて進むと、鍋山と花無山の間の溪流に出ました。西行はこの地に庵を結び、三尊の堂に参り念仏の業を修めました。

西行の終焉の地は十三ヶ所あったとされています。恵那の地もその中の一つです。

死期の迫った西行は村人たちを集め「私が死んだら、私が弥陀を見たところに葬ってほしい。」と言って別れを告げました。

西行法師とは・・・

平安時代の終わりごろの侍、歌人、僧です。俗名を佐藤義清（のりきよ）と言いました。当初は、後鳥羽院に仕える北面の武士でした。同僚に平清盛がいました。二十三歳の時に失恋が原因で出家（侍から僧になった）しました。

恋に関わる歌としては百人一首に選ばれている有名な句があります。

嘆けとて 月やはものを おもはする

かこちがをなる 我が涙かな

（百人一首八十六番）

西行は出家後東国や西国に行脚し、保元の乱から鎌倉幕府創立に至る転換激動期を生き抜き、歌人として活躍をしました。生涯で詠んだ句が二千を超えるというのですから相当なものです。

西行の歌の多くは、恋の歌、花や月の歌です。特に、桜を詠んだ句は格別多く、芭蕉をはじめ後世の歌人・詩人に大きな影響を与えました。

恵那においても大正時代の青年団活動、昭和から平成にかけての町づくり活動の中心におかれるなど、多彩な形で人々の中に生きています。（平成二十二年九月 恵那市教育委員会発行の文書より）

東野に遺る西行の史跡

○花無山の西行歌碑

「花なしの 峯に住みける 鶯の 己と鳴きて 春を知るらん」という西行法師が詠んだ歌が彫られた大きな石の歌碑が建っています。



○竹林庵

東野向島の阿木川を見下ろす山地の中腹にあります。江戸時代の「木曾路名所図会」にはこの庵についての記述があります。それによると西行は、ここに三年間住んだということです。恵那市に史跡に指定されています。



○阿弥陀堂（向島）

西行は文治二年（一一八六年）秋、ここ阿弥陀ヶ根で阿弥陀仏の化身に会い、尊像を作りお堂を建立しました。時を経て、元禄二年地元民が石像を奉納し荒廃していたお堂を再建しました。



○杉山の清水

旧岩村街道沿いに湧き出る清水で、県百名水の一つです。西行が阿弥陀堂へ参詣するときに愛飲したといわれています。



歴史で地域を強くする

恵那市に遺る西行の史跡

東野以外でも市内にいくつか西行にかかわる史跡があります。

○西行塚

長島町中野の中山道を見下ろす丘にあります。ここからは、恵那市の市街地が一望できます。塚



には一・五メートルの五輪の塔が建っていますが、西行の墓標と伝えられています。岐阜県の史跡に指定されています。

かの松尾芭蕉もこの地を訪れ一句詠んでいます。

西行の わらじもかれ 松の露

松尾芭蕉

○西行硯水

長島町中野新田の中山道の傍らにあります。西行がこの池の水で墨をすったとの伝承があり、そこから硯水と呼ばれるようになったということです。



○松林庵

恵那の地に西行が結んだ三つの庵のうちの一つです。

三郷町野井の野井川を見下ろす段丘上にあります。

恵那市の史跡に指定されています。

本来の場所は、田の中ほどにあったようですが耕地整理のため現在地に移されました。石碑と石の標柱が現存するのみです。



○梅露庵

三つの庵のうちの一つです。

長島町永田の主要地方道多治見・恵那線西側の山麓にあります。木立の中に小平地が残っています。この地は小さな公園として整備されています。



西行が結んだ三つの庵に共通するところは、いずれも鍋山や花無山の山並みが美しく映える場所です。西行は緑深き山々の景色を好んだようです。

恵那にかかわる西行の歌

恵那街道歩記より

思えただ花の散りなんきのもとに何をかげにて我身すみなん・山家集
待たれつる人相の鐘のおとす也明日もやあらば聞かんとすらん・山家集（西行塚歌碑）
郭公都へゆかばことつてんこえくらしたる山の哀を・西行上人集
道の辺に清水流るる柳陰しばしとてこそ立ちどまりつれ・新古今和歌集・硯水公園歌碑
心ある人に見せ場や大井なる花無山の春の気色を・長国寺縁起・竹林庵歌碑
花無の峯に栖みける鶯は己と鳴きて春を知るらん・長国寺縁起
夜風の堺は此に有明の月吉日吉吉影をならぶる・長国寺縁起
よもすがらあらしの音に夢さめて大井の夜戸に霞をぞきく・口碑
駒形と山にみ雪の残らばや旅も水田の冬の名ごりに・口碑
一つ田の水もわかるる西東月日の夢（影）をうつすあけがた・口碑

歴史で地域を強くする

東野は、縄文・弥生の昔より米作りを糧として成り立ってきました。染戸遺跡や大野吾遺跡の出土品がその証です。

江戸時代には、岩村藩の領地として、藩の中でも一・二番を争う大栗田でした。

大正の初めには、大きなため池として保古の湖を造り、開墾した地蔵ヶ平や白坂に水を引く保古の湖用水が完成しました。そのおかげで、田が二倍になり、近隣に比類なき米作りの里が出来上がりました。

おかげで、度重なる水害や飢饉にも東野の民は飢えることなく暮らすことができてきました。

しかし、これまで安泰で安全に米作りができていたわけではありません。例えば、隣接する坂本の民との土地争いで、命をかけて守ってきたという歴史も残っています。

米どころ東野

この東野は、阿木川と飯沼川から流れ出る扇状地で、肥沃で土質が米作りにピッタリということもあって、おいしいお米がたくさん収穫できます。

先祖が大切にしてきた米作りは、かけがえのないものであり、東野の歴史そのものです。

東野小学校の

総合的な学習の時間

（四年生、五年生）

東野小学校の四年生、五年生の総合的な学習の時間には、探求課題として米作りを取り入れています。田植えに始まり、稲刈り、脱穀、収穫祭に至るまで一連の米作りの流れを体験的に学んでいます。

総合的な学習の時間は、学校や地域の実態に応じて、課題の選択は学校で決めることになっています。東野小学校の四・五年生では米作りを課題に取り入れています。

前述のように東野は米作りで成り立ってきた地域です。

米作りを学ぶことは東野を学ぶことであると思います。



これまで、五月に田植えを行い、九月に稲刈りを体験しました。今後は、収穫祭を計画しているそうです。

今では、田植えは田植え機で、稲刈りと脱穀はコンバインという機械で効率的に短時間に行っています。

しかし、この総合的な学習の米作りでは、田植えは手植えで、稲刈りは鎌を使い、乾燥は昔ながらのはぎ干しです。

十月十四日は脱穀の日でした。四年生と五年生が丸山文恵さんや加藤宗平さん、JAの方々の手を借りて脱穀に挑戦しました。

下の写真のように、千羽こぎ、足こぎ脱穀機、コンバインとひと昔前の道具から、現在の最新の道具まですべてを体験しました。

機械を使わずに米作りをするということは、時間もかかり、労力も随分とかわかりますが、汗をかいて働くことで、かえって昔の人々の苦勞も体を通して学ぶことができました。



東野小学校2年生



十月二十八日（木）、東野小学校の二年生がサツマイモの収穫をしました。天気に恵まれ、暑くもなく寒くもなく絶好の収穫日和でした。サツマイモが土の中から出てくると「ワーっかい」と歓声があがりました。大きさばかりでなく、形にも興味津々で、ひょうたんに似たサツマイモに、「ひょうたんサツマイモ」と名前を付けてたのしんでいました。

収穫したサツ種は、こども「あんのうい」「べにはるか」「ルクスイート」の類です。春、イモのを植えるときは、区別ができませんでしたが、収穫してみると、色の違いではっきりと見分けることができました。

中には、推進員の丸山文憲さんから備中のような道具を借りて、上手に掘り返して収穫する子もいました。

二年生のサツマイモの収穫は、生活科の勉強として行われていて、この活動を通して、収穫の喜びを身をもって体感することができました。

.....

実りの秋

三種
苗

マイモの品
園と同じ

東野こども園



十月八日（金）、東野こども園でサツマイモの収穫をしました。

収穫には東雲会の役員さん、丸山文憲さん、保護者の代表の方々が応援に駆け付けました。

こども園の畑の三列のそれぞれの畝に「あんのうい」「べにはるか」「ルクスイート」の三種類のサツマイモが育ててあります。

最初に「黄組」と「緑組」の園児たちが二人組になって「べにはるか」の蔓を引っ張ってイモを引き出しました。「よいしょ、よいしょ」と掛け声をかけて力を合わせて引っ張り、イモが出てきたときは、「うわーっかい！」と驚きの声があがりました。蔓

が切れたところは根元を掘り、残ったイモを掘り出しました。「べにはるか」は「桃組」の園児で一人一株ずつ掘り、「ルクスイート」は「緑組」の園児たちが掘りました。

収穫は昨年並みということです



東野ふれあい作品展

今年の文化祭は、昨年同様コロナの感染防止のため歌舞伎公演と音楽祭、バザーは中止となってしまいました。が、作品展は感染防止に気を付けながら実施することができました。

出展者は、東野こども園、東野小学校、あすなろ会、そして一般の方々でした。

東野こども園は、三歳児は「お話の絵」、四歳児は「紙・いも版画」、三・四歳児のスマイル学級として「足形、手形アート」。そして、五歳児は「落ち葉の版画」。五歳児のスマイル学級の作品は「ぼく。わたしの絵本」でした。どの作品もカラフルで美しく、季節を感じさせる作品ばかりでした。

東野小学校は、一年生と二年生、四年生は工作の作品で、三年生、五年生、六年生は絵画の作品でした。

一年生は「お菓子のお皿」で、二年生は「想像の動物」です。いずれもカラー粘土で造る粘土工作です。

四年生は、ベニア板を加工した「ペン立て」です。思い思いの形と図柄で造りあげてありました。

絵画作品では、三年生は「物語絵」。五年生は、「火災予防ポスター」。六年生は、「思い出の風景の写生」です。個性あふれる作品ばかりでした。



一般の作品では、あすなろ会から多くのクラフト作品を出展していただきました。来年の干支である虎の作品から、身近な小物まで素晴らしい作品ばかりでした。

特別な出展として、「恵那の用水物語」、郷土の画家・陶芸家の西尾楚泉の掛け軸、書、陶芸作品、絵画など、多くの作品を出展していただきました。コロナ禍で、少し心配していましたが、みなさんのエネルギーが伝わってきました。



東野ふれあい写真展

今年度の写真展は全部で五十七点出展していただきました。

被写体をジャンル別にみると、明知鉄道に関するものが約二十パーセント、風景が約五十七パーセント、動植物が約十四パーセント、人物が約九パーセントでした。

その風景写真の中で、特に多かったのが夕暮れ時の写真です。また、動植物などの写真の中で、多かったのがホタルの写真でした。

東野には夕暮れとホタルが似合います。



撮影時期別にみると、圧倒的に多いのが、六月です。全作品の半分近くが六月に撮影されています。反面、十二月に撮影された作品はゼロでした。

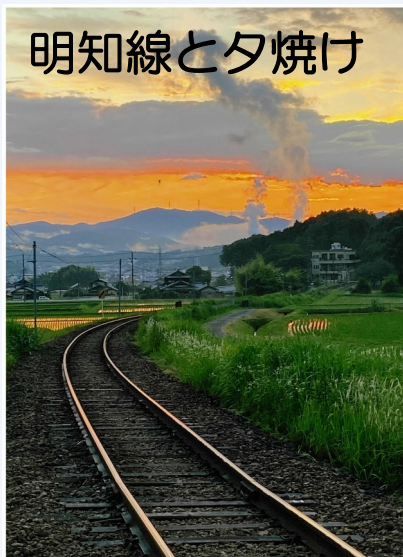
写真展の期間中、丸山いづみさんに花を活性化いただきました。ありがとうございました。今回も参観者に投票をお願いして、コンクール形式にいたしました。

票の多かった二点を紹介します。

早春の足音



明知線と夕焼け



災害福祉マップ

社会福祉協議会東野支部では、災害等の緊急時に安全な場所への避難の支援を必要とする方を要援護者として登録していただき、災害福祉マップを推進しています。登録することで自治会の災害福祉マップに要援護者世帯として記載され、災害発生時等の安否確認や救助に活用されます。



要援護者とは（次のいずれかに該当する世帯）

- ① 65歳以上で一人暮らしの世帯
- ② 高齢者のみの世帯（70歳以上の方のみの世帯）
- ③ 自ら避難することが困難な方（要介護者、障がい者、高齢者等）が住む世帯
- ④ 昼間、高齢者のみになってしまう世帯

また、地域の見守りにも活用してまいります。

災害福祉マップへの登録や登録

内容の変更は社会福祉協議会東野

支部（東野振興事務所）又は自治

会の福祉協力員へご連絡ください。



地域の話題

ハチの巣の撤去

知らない間にコミセンの裏の生垣の中にスズメバチの巣ができていました。

巣は、直径三十センチほどのドッチボールより少し大きめの球状をしていました。



はじめは自分たちで撤去しようとしたのですが、危険を感じたのでプロにお願いすることにしました。

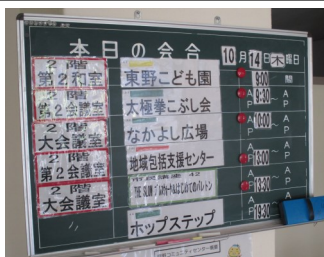
撤去にかかった時間はほんの数秒でした。

東野地域安全パトロール

(12・1月)

金曜日16:00～17:00

12月	
3日	東野開発振興会
10日	東野自治連合会（上）
17日	東野自治連合会（下）
1月	
14日	東野小学校PTA
21日	恵那東中学校PTA
28日	東野こども園育友会



緊急事態宣言が解除され、コミセンの貸館も再開できるようになりました。その結果、待ちに待った開放とあって、予約がいっぱいになりました。上の写真のように、行事黒板からはみ出るほどの。久しぶりに活気が戻ってきました。

文芸

花なし山句会自選句

令和三年十月二十二日

- ・ 離れ住む義妹に送る栗きんとん 市川 芳子
- ・ 西日差す風爽やかな青き空 内木伊都子
- ・ 散歩径色変わりゆく花野かな 千藤 猛司
- ・ 霧晴れてダム一望の水没碑 千藤 恵三

乳幼児学級 すくすくクラブ

どんな焼き上がりになるのかな？楽しみ
です。



こ～んな感じに
焼けました



10月21日（木）に「防災と食育」を学ぶ為、災害時にも簡単に作る事が出来る「フライパンでパン」作りをしました。ビニール袋があれば容器を汚さず、いつでもどこでも出来ます。当日発酵させたものは持ち帰り、自宅で焼きました。親子で一緒に楽しめるといいです

一般書・児童書だけでなく、雑誌なども置いてあります。貸し出しも可能ですので、ぜひご利用ください。

閲覧可能雑誌

◆きょうの健康 ◆オレンジページ ◆現代農業 ◆こどものとも

「ミセン」
図書コーナー

つばやき

少し前になりますが、知り合いの方から暑中見舞いを兼ねて、近況報告が届きました。同じ思いでしたので、紙面をお借りしてご紹介いたします。

田舎なのでコロナ禍というわけではありませんが、今一番気兼ねなく出歩けるところは、畑か田んぼです。実に気軽にうれしい。もちろんマスクなどは不要です。現役のころには考えもしなかった百姓の奥深さを感じています。畑に出ていると、隣の後期高齢者のおばあさんが、虫に食われた収穫物を見ては、「百姓は毎年一年生だで！」と慰めてくださいます。

出荷するほどの腕前やマメさがないので、今後も“家庭菜園”の域を出ることはないと思いますが、農作業をしながら我が田畑の跡継ぎや集落の存続など身近で切実な問題だけでなく、毎年増える耕作放棄地と日本の食料事情など、日本の農業の行く末についても思いを巡らしています。

.....

発行

東野コミュニティセンター ☎二六―二五五五
東野地域自治区運営協議会 ☎二六―二二四四